

執筆者紹介

(*は編者)

宮本 弘典 (みやもと・ひろのり)

序 章

1958年生。中央大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学
関東学院大学法学部教授
〔主要業績〕
『国家刑罰権正統化戦略の歴史と地平』編集工房朔，2009年
『刑罰権イデオロギーの位相と古層』社会評論社，2021年

*内田 博文 (うちだ・ひろふみ)

第 1 章

1946年生。京都大学大学院法学研究科修士課程修了
九州大学名誉教授／国立ハンセン病資料館館長
〔主要業績〕
『医事法と患者・医療従事者の権利』みすず書房，2021年
『治安維持法と共謀罪』岩波書店，2017年

櫻庭 総 (さくらば・おさむ)

第 2 章

1980年生。九州大学大学院法学府博士後期課程修了／博士(法学)
山口大学経済学部教授
〔主要業績〕
『ドイツにおける民衆扇動罪と過去の克服』福村出版，2012年
『ヘイトスピーチ規制の最前線と法理の考察』法律文化社，2021年，分担執筆

*春日 勉 (かすが・つとむ)

第 3 章・第 5 章

1969年生。九州大学大学院法学研究院博士後期課程単位取得退学
神戸学院大学法学部教授
〔主要業績〕
『「保釈」—その理論と実務』法律文化社，2013年，分担執筆
『“スルー・ケア”とコミニティーの役割—カナダの犯罪者社会統合論を参考にして』神戸学
院法学 43巻 4号，2019年

内山真由美 (うちやま・まゆみ)

第 4 章

1982年生。九州大学大学院法学府博士後期課程単位取得退学
佐賀大学経済学部准教授
〔主要業績〕
『〈市民〉と刑事法〔第5版〕—わたしとあなたのための生きた刑事法入門』日本評論社，2022年，
分担執筆
『日本の医療を切りひらく医事法—歴史から「あるべき医療」を考える』現代人文社，2022年，
共著

陶山 二郎 (すやま・じろう)

第6章・第11章

1967年生。九州大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学
茨城大学人文社会科学部准教授

〔主要業績〕

「戦前日本における刑事再審理論の検討」茨城大学政経学会雑誌第81号, 2012年

「いわゆる『高知白バイ事件』における目撃供述の信用性分析」茨城大学人文学部紀要(社会科学論集) 61号, 2016年

森尾 亮 (もりお・あきら)

第7章・column

1967年生。九州大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学
久留米大学法学部教授

〔主要業績〕

『人間回復の刑事法学』日本評論社, 2010年, 編著

『犯罪の証明なき有罪判決—23件の暗黒裁判』九州大学出版会, 2022年, 分担執筆

福永 俊輔 (ふくなが・しゅんすけ)

第8章

1979年生。九州大学大学院法学府博士後期課程単位取得退学
西南学院大学法学部教授

〔主要業績〕

「共犯現象における因果性と関与区分について—承継的共犯を素材に」西南学院大学法学論集55巻4号, 2023年

「傷害罪の承継的共同正犯と刑法207条」西南学院大学法学論集54巻3 = 4号, 2022年

***大場 史朗** (おおば・しろう)

第9章

1983年生。神戸学院大学大学院法学研究科博士後期課程修了／博士(法学)
大阪経済法科大学法学部教授

〔主要業績〕

「〈市民〉と刑事法〔第5版〕—わたしとあなたのための生きた刑事法入門」日本評論社, 2022年, 分担執筆

『犯罪の証明なき有罪判決—23件の暗黒裁判』九州大学出版会, 2022年, 分担執筆

岡田 行雄 (おかだ・ゆきお)

第10章

1969年生。九州大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学
熊本大学大学院人文社会科学研究部(法学系)教授

〔主要業績〕

『少年司法における科学主義』日本評論社, 2012年

『非行少年の被害に向き合おう!』現代人文社, 2023年, 編著

岡本 洋一 (おかもと・よういち)

第12章

1972年生。関東学院大学大学院法学研究科博士課程修了／法学博士
熊本大学大学院人文社会科学研究部(法学系)准教授

〔主要業績〕

『近代国家と組織犯罪—近代ドイツ・日本における歴史的考察を通じて』成文堂, 2017年

『日本の医療を切りひらく医事法—歴史から「あるべき医療」を考える』現代人文社, 2022年, 共著